

本地区は、本市の中心拠点であり、市内各地域や市外から公共交通を利用してアクセスしやすい場所です。しかしながら、市民の日常的な移動は車に依存しており、本地区への来訪者も車によるアクセスが多くなっています。加えて、タクシーの台数や路線バスの本数も少ないことから、帖佐駅を起点とした乗り換えの利便性も低くなっています。

今後、公共交通の利用を促進し、本地区内の回遊性向上を促進するため、利用しやすい交通環境の整備に取り組みます。

1 帖佐駅や駅前広場における待合環境の改善

本市の玄関口であり、電車・バス・タクシー・自転車等の乗り換え結節点である駅前広場は、年間を通じて快適に利用できる待合環境を整備します。

また、長い待ち時間を快適に過ごせるよう、交流空間の整備や、駅舎の低未利用スペースの活用・改築等を検討し、快適性の向上を目指します。



駅舎を活用した交流空間
(Takebayashi Landscape ArchitectsHPより)

2 回遊性を向上させるための新しい交通手段の導入検討

本地区は、鉄道やバス等を利用して、市内他地区や周辺自治体からアクセスしやすいエリアです。来訪者も含めて、車への依存を減らし、また、本地区内を気軽に移動できるようにするため、公共交通利便性が高い場所や、公共用地を活用し、新しい交通手段の導入を検討します。

導入にあたっては、市民の移動に加え、観光客やビジネス利用も想定し、関係事業者の連携により、持続可能かつ、利便性の向上につながるよう検討します。



駅近くに設置された
シェアサイクル



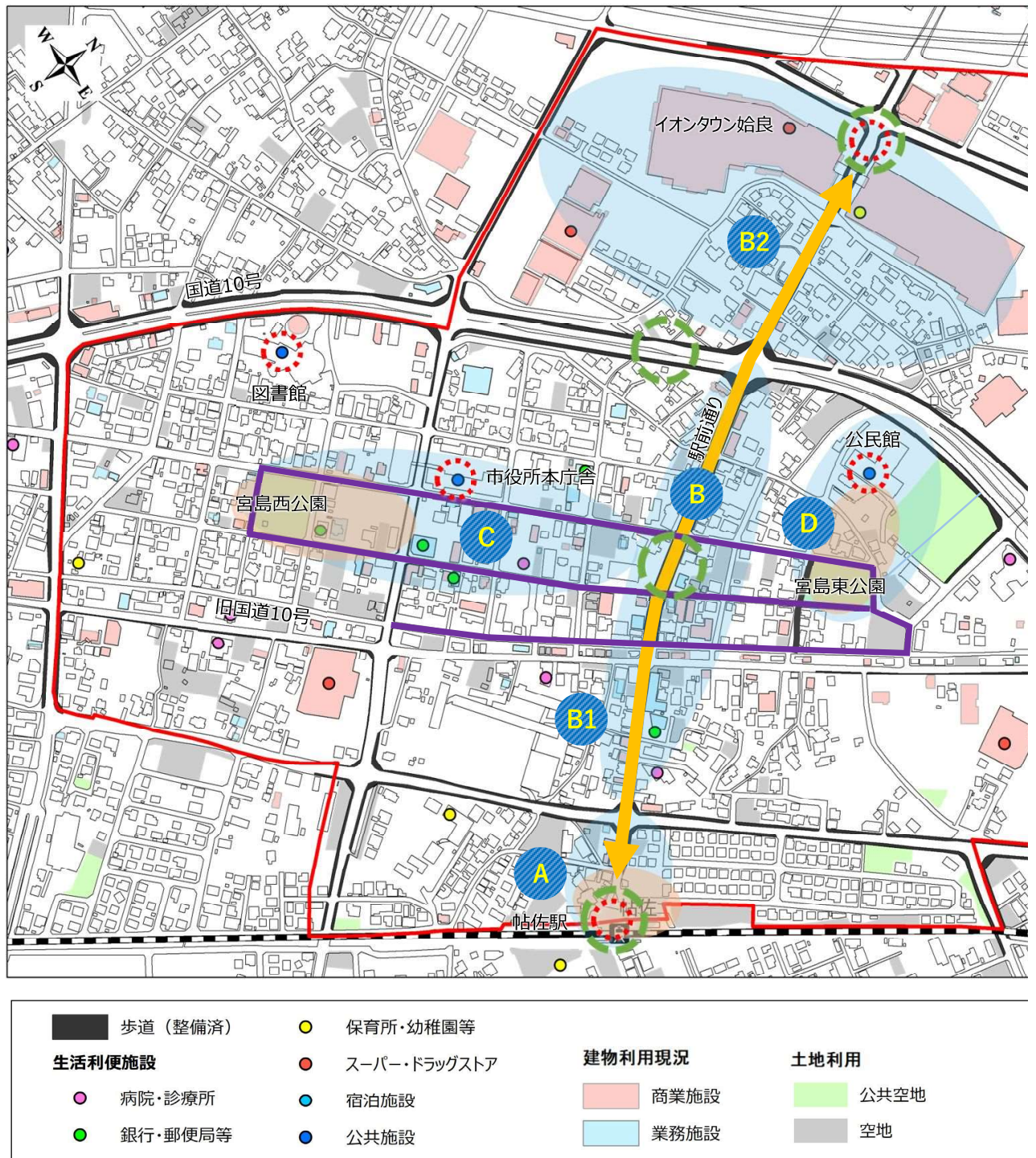
駅近くの店舗軒先に設置された
電動キックボードシェア

4. エリアごとの将来像や期待される機能

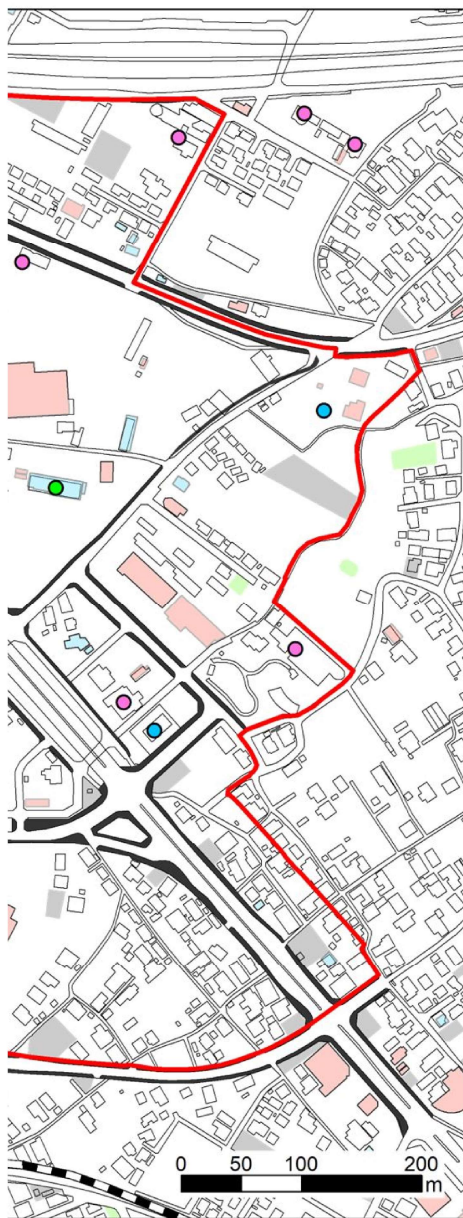
(1) 優先的に取り組むべきエリア

基本方針の実現にあたっては、ポイントとなる箇所から徐々ににぎわい等を広げていくことが有効です。

図表3-9 優先的に取り組むべきエリアとエリアごとの方向性



「3. 基本方針の実現に向けた9つの戦略」や、ワークショップ等における意見、本地区内の特性を踏まえて、優先的に取り組むべきエリアや、特性を踏まえたエリアごとの方向性を整理します。



エリア全体における回遊性向上のための取り組み

1 一体的な空間形成

一体的なデザインの空間形成により、本地区全体の一体性を向上させます。

2 東西軸の設定

エリアCとエリアDをつなぐ道路を中心に、**東西軸を設定し、歩行環境の整備・改善**に取り組みます。

3 小さな拠点の整備

既存施設を有効活用し、情報案内や交通の乗り継ぎ等、まち歩きの出発点となる**小さな拠点**の整備を検討します。

4 公共空間の積極的な活用

公共空間を活用して、社会実験等を実施し、にぎわいや市民の活躍の場を創出します。

各エリアの取り組み

A 駅前広場周辺

新たに整備する駅前広場や駅前通りの拡幅するエリア
本市の玄関口として一体的に検討し、ハード・ソフトの両面からシンボル空間を創出します。

B 駅前通り全体 **B1 B2**

本市のメインストリートとして、1本の一体的な軸を形成しながらも、立地特性を活かして特色が異なる2つのゾーン (B1、B2) に分けて検討を行います。

C 市役所・宮島西公園周辺エリア

D 公民館・宮島東公園周辺エリア

集客と利用の観点から本地区の核となるエリアとして設定し、エリアの特徴に応じた場づくりを行います。

- シンボル軸
- ゾーン
- 公共空間を活用した社会実験の推奨区域

- 小さな拠点
- 公共交通による広域からのアクセス拠点

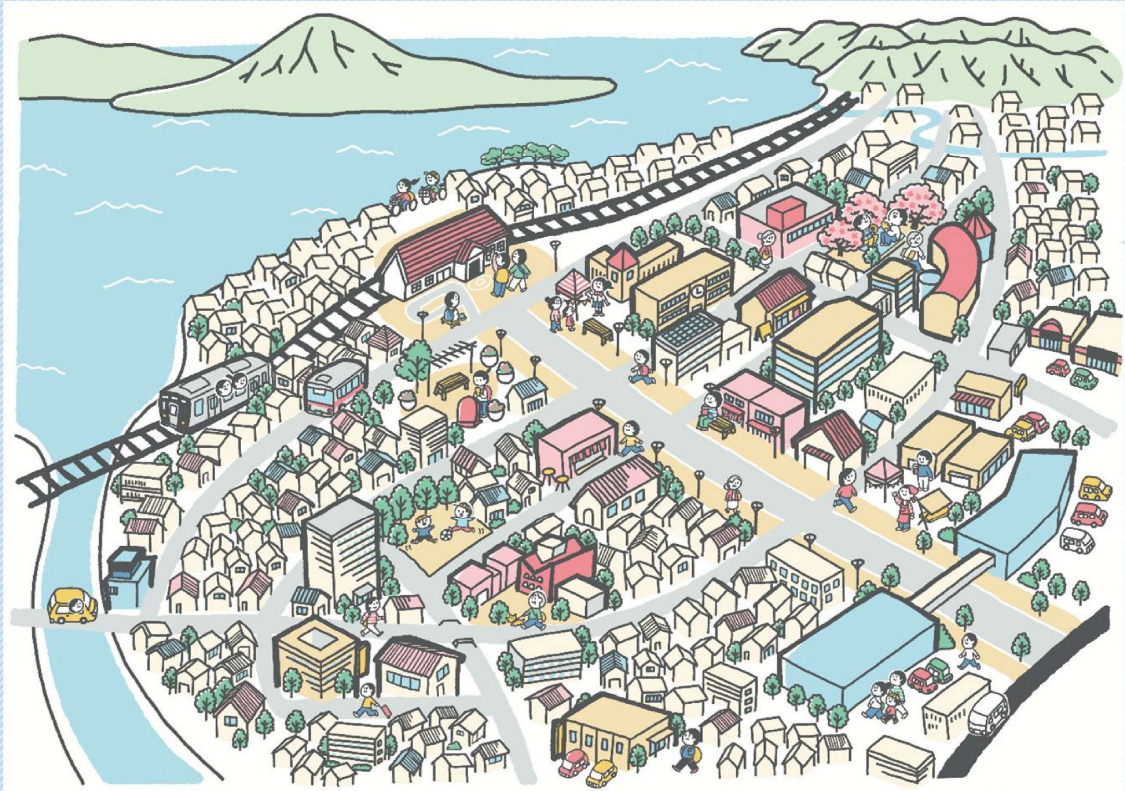
- 歩行者環境の整備・改善

(2) エリア全体における回遊性向上のための取り組み

1 一体的な空間形成

統一的なデザインの案内サインや植栽、照明設備、歩道整備を導入します。

一貫性のある景観づくりを行うことで、歩きたくなる魅力を向上し、各エリアをつなげていきます。



戦略 3 持続的な組織づくり

- 地域との連携による地域清掃等の実施や花壇の設置等、良好な維持管理
- 地域等が主体となったベンチづくり等イベントの開催

戦略 7 歩くための空間づくり

- 軒先店舗を活用した日よけやベンチの設置による休憩スペースの創出
- 沿道の店舗の協力による統一的なデザインの植栽ポットの設置・みどりの創出

2 東西軸の設定

エリアCとエリアDをつなぐ通りは、メインストリート（エリアB）からの回遊を促す東西軸として設定します。

沿道の所有者と連携して、店舗の軒先や青空駐車場、道路空間の利活用によって活動が見える化します。またそれらの沿道にあふれ出す活動を覗きながらゆっくりと歩けるよう、道路空間の再配分により、歩行者優先の環境を整備し、沿道の土地利用に対応した滞留空間の創出を検討します。

また、日常の散歩等にも活用できるよう、店舗前等への休憩施設の設置を検討します。これらにより、歩いて楽しい空間を創出します。

3 小さな拠点の整備

既存の公共施設等の立地を有効活用し、休憩（ベンチやトイレ等）や情報案内、交通の乗り継ぎ等、活動の拠点であり、まち歩きの出発点となる小さな拠点を整備します。

（シェアサイクル等の交通手段、情報板や無料Wi-Fi、クールスポット、休憩施設等）



4 公共空間の積極的な活用

にぎわいや市民の活躍の場を創出することで、活動をつなぐ場として、公共空間等の積極的な活用による社会実験等の実施を検討します。

(3) 各エリアの取り組み

A. 駅前広場周辺

市の顔としてまちなかの魅力を伝え、誘導するエリア

- 駅前広場の整備による安全性の向上とあわせて、市民がまちなかで実現したいチャレンジを応援し、市の顔となるシンボリックな空間を創出します。また、駅の利用者を対象として待合空間を充実（快適性の向上）させるため、**交流空間の整備を検討**します。
- 市内全域からのアクセス利便性を活かし、本地区内だけでなく本市全体の魅力や情報を発信する拠点として活用するため、情報発信機能と本地区内の交通手段を充実させ、本地区内の回遊性を向上させます。
- 駅前通り（駅前広場～旧国道10号までの区間）は、帖佐駅への近接性と歩道空間を活かし、公共空間活用を積極的に進めるエリアとして、イベント時にも活用可能な道路空間を創出し、地域の活動の場としての活用を目指します。



戦略 1 公共空間の活用

- 活用のイメージ
 - 多世代が交流するフリースペース
 - 子育て世代が集い、休憩できるスペース
 - コワーキングスペースや学習スペース
 - 災害時の帰宅困難者の一時避難場所

戦略 4 人をひきつける仕掛け

- 仕掛けのイメージ
 - 桜島を見渡せる眺望スペース・スポット
 - キッチンカーによる移動販売車の飲食販売・にぎわい創出
 - イベントの開催

戦略 8 案内機能の充実・適切な情報発信

- まちなかや観光に関する情報を発信する案内所や案内板等の設置検討

戦略 9 利用しやすい交通環境

- レンタサイクル等、本地区内を回遊するための交通手段の導入検討